http://www.naniwa-rojo.com/

なにわ路情

野宿考ジャーナル
13号（季刊）

「なにわ路情」がめざすもの

- 野宿生活者の生活や声をとりあげ、ともに考える新聞です。
- 脱野宿のきっかけとなるような紙面づくりを心がけています。
- 今までのこと、そしてこれからのこと、いっしょに考えていきませんか。

アパートに入居してそれぞれの生活が始まっています

～東京の地域生活移行支援事業について～

安江鈴子（新宿ホームレス支援機構）

■五大公園で

東京では、昨年の七月より、新宿の二大公園で、「地域生活移行支援事業」という事業が始まりました。月額三千円の家賃で、民間のアパートに住み、最初の半年間は、希望者に公園清掃などの公的就労が提供されます。借り上げアパートの契約は二年間なのですが、三千円のまま更新することもできます。新宿の中央公園・戸山公園から始まって、隅田川両岸の墨田公園、渋谷の代々木公園、そして、最後の上野公園で、現在、アンケートが取られています。公園に寝ている方は、テントでもダンボールでも申し込むことができるのです。

■入居した方たちは…

新宿区高田馬場にある都立戸山公園では、昨年の七月から半年間の間に二二八人（夫婦六組、親子一組を含む）の方がアパートに移りました。高田馬場にはたいへん小さくなってはいるものの寄せ場があり、戸山公園で野宿している方は、戸山から建築日雇に行っている方がほとんどでした。四〇歳代や五〇歳代でも、派遣で引越しなどの仕事に行っている方も少数おられ、空き缶集め、本集め、それに銅線集めの方もやはり少しおられました。収入がなく、炊き出しで命をつないでいる方もおられました。

新宿のアパートを希望する方が多かったのですが、アパートを新宿区内にばかり、集中させることはできないため、三分の二の方が近隣の区に行かれました。朝の寄せ場に来るため、一番電車でなかまに会うそうです。

臨時就労は、都立公園の掃除で、近くの公園もあれば遠くのものもあり、交通費は自己負担で、日当も八千円から九千円と幅があったため、配分については文句が出たりしましたが、まずまずの評判でした。なにより、期間が半年であることと、仕事の絶対数が少ないことについては、この事業の根幹の問題だと、みなさん思っておられるようです。臨時就労をやって、あとは住所ができたので、ハローワークでパートの仕事を見つけた方もおられます。生活保護を受けるようになった方も約六〇人おられます。

アパート入居した方たちとのお花見中央が筆者

■Aさん（六四歳）の話

自分は青森出身で一五歳のときに東京に来た。一八か一九歳のとき、池袋のドヤに泊まっていて、「オケラになって現金ほしければ馬場に行けばよい。」と聞いて、馬場に来た。その頃は仕事があって、馬場もにぎやかだった。朝も六時でよかった。今は四時か五時に行っても仕事はない。東京オリンピックの前だな。それ以来ずっと馬場に立ってる。関東一円どこでも行った。池袋のドヤに泊まることが多かった。白手帳の話は聞いたことがあるけど、自分は取らなかった。

景気が悪くなって仕事がなくなってポツリポツリと野宿するようになった。知り合いに「どこか寝るとこないか？」と聞いたら、戸山公園のこの場所にテント作らせてくれた。アパートに入る話が出てきたけど、住所がないしダメだろうと思ってた。周りがみなアパートに入り出して、自分も入れることがわかったから、やっていけるか心配だったが、思い切って入ったんだ。

■いっしょにがんばります！

アパートに入っても生活が苦しい方はたくさんおられ、ちょっと具合が悪くて仕事に行けなければ家賃も払えなくなるわけで、そういう場合、みなさん、生活保護を申請しています。年度替りには、建築の仕事が減り、「仕事がない！」という悲鳴が聞こえましたが、「アパートはいいから手放したくない。」とみなさんとてもがんばっておられました。なんとか、アパート入居した方の生活がもう少し安定したものになるよう、いっしょにがんばりたいと思っています。

（上）代々木公園内の地域移行支援事業の現地相談所
（下）地域移行支援事業で新しい住処となったアパートの一例

■編集協力（有）Inr-visible（インビジブル）http://www.inr-visible.net/・（有）地域・研究アシスト事務所 http://www.cr-assist.net/

紙面

1 アパートに入居してそれぞれの生活が始まっています
2 「ペットどうする？」「そうだよなぁ」
2 お寺さんが釜ヶ崎にやってきた
3 堺市にも、自立支援センター開設される！！
3 だいじなお知らせ～国境なき医師団診療所開設～
3 「一〇・三〇野宿生活者支援統一行動」のお知らせ
4 ビッグ・イシュー販売員報告（第四回）
4 編集後記

発行元
なにわ路情編集局
〒530-8090　大阪中央郵便局留
「なにわ路情編集局」係
tel　080-3767-7989
e-mail　rojoinfo@zap.att.ne.jp
http://www.naniwa-rojo.com/
郵便振替口座番号
00900-5-222740 なにわ路情編集局

ビッグ・イシュー販売員報告（第四回）

① わが道をゆく　京都ベンダー編

ペンネーム　三條不浪

芝生に段ボールを敷き、その上に身を横たえる。星がまたたき、雲は流る。好きなアルコールを少々ふくみ、ラジオのイヤホンを耳にして夜空を見上げれば、いつの間にやら夢心地。朝の目覚めはさわやかだ。

ウーム、路上生活も捨てたものではなかり、といったところか。冬場はいささか辛いけれど、夏場は快適この上なし。ゴクラク、極楽と、身に沁みて感じる今日この頃ではある。

路上生活者といえども、幸せとは無縁ではない。それは種々様々。まぎれもないホームレスならば、「路上の幸福」を存分に味わおう、と思う。嘆き悲しむ事は、ない。

ホームレスが不幸せで、そうでない人が幸福者とは限るまい。貧乏人がわずかの金銭にあくせくすれば、持てる者には持てる者なりの苦労があろう。どのような身の上であろうとも、遅かれ早かれ、いずれ最後は、あの世とやらへ往く。我が身の上を嘆くなかれ、である。

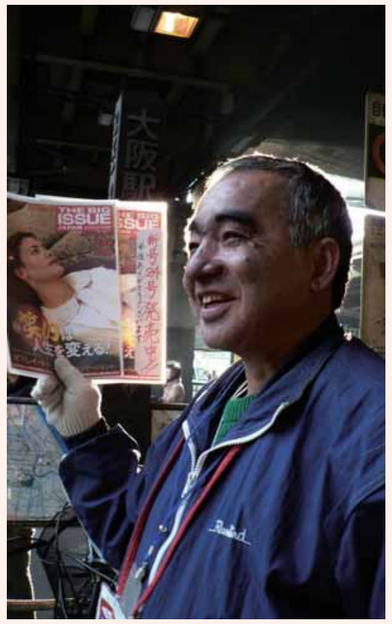
たとえば、アルミの空缶集めで生計を立てている人。いうなれば自営業者、オーナー社長。一国一城の主である。立派に「自立」しているのである。この人は自らの性格を覚り、世間とは最小限の接触で生きてゆこうとして、現在の仕事を、生活を、積極的に択んだのかもしれないのだ。

ホームレスを、世間一般人の歩く路から落っこちた者とみる見方もあるが、一寸角度を変えて見れば、当人が当人なりに綜合的に判断して、これが自らにとって最適と思って選択した路なのかもしれない。

小生もホームレスになる以前には、前者のような思いでいたが、自分が実際にその身になり、他のホームレスを見たり接するうちに、後者のような思いを強く抱くに至った。

ホームレスは決して弱者ではない。強者であるかはともかく、だいいちジャクシャでは路上生活は送れない。

小説『砂の女』（安部公房作）にならっていえば、「砂の男」もいたっていいではないか、というのが、小生の結論である。



ビッグイシューを販売する瀧さん

② これから咲く花もあるわ

大阪市の特別清掃事業を手伝いながら、ビッグイシューを販売してきた瀧富雄さんは毎朝五時には起きて、七時半には本町の北御堂前の売り場に立っています。収入は多くはないけれど、サラリーマンたちから「頑張って」と声をかけられると、今までの仕事になかった格別の気持ちになるそうです。

生まれは鹿児島県の与論島。当時、島には高校がなく、中学卒業後は名古屋に集団就職し、「自転車の車輪用に針金を丸くする作業」を延々やりました。しかし、人づき合いに疲れ、退職した後は漁師などの職を転々とし、三〇年前に大阪・釜ケ崎へ。日雇いで稼いではパチンコにつぎ込む日々でした。八年前にはお酒の飲みすぎで肝炎にも。「ほんと自分はチャランポランで。今は反省ばっかりしてるわ」と語ります。

日雇い仕事が次第に減って、一年半ほど前から野宿生活に入りました。やはり最初はつらかったものの、世間の印象とは違い、缶拾いなどの仕事を一生懸命やってる野宿者が多く、人の見方が変わったそうです。

小学六年生のとき、瀧さんは両親を相次いで亡くしました。残された兄妹五人と祖母らの暮らしは、当時一八歳だった姉の織る大島紬と一六歳の兄の畑仕事から得る僅かな収入だけが頼りでした。一〇年前に帰郷して以来、故郷とは疎遠になっていましたが、野宿生活を始めたばかりのころ、与論島のお兄さんから瀧さんに手紙が届きました。知人が西成公園まで届けてくれたのです。そこには丁寧な文字で、家族の近況などとともに「もう歳なんだし、無理をせずいつでも帰ってきてください」とありました。

その一言は瀧さんに勇気を与えてくれました。でも、「今の状態ではなあ」と心は揺れ、去年の暮れ、兄に電話をして元気でやっていることだけを伝えました。

「咲かずに終わる花もあるけど、まだ一度も咲いたことないから、これから咲くこともあるわな」。瀧さんに夢を尋ねると、照れくさそうにそう言いました。

THE BIG ISSUE JAPAN ビッグイシュー日本版

ホームレスの仕事をつくり自立を応援する、ビッグイシュー日本です。
雑誌販売に興味ある方は下記までお問合せ下さい。
■連絡先：06－6344－2260
■住所：大阪市北区堂島2-3-2堂北ビル4F

b. mixes
BIKOH
Industry Corporation
http://www.bikoh.biz
就労支援をNICEと協働に応援します

編集後記

全国で新たな施策も動き始めてきました。「なにわ路情」では引き続き、その動きを紹介していきたいと考えております。同時にみなさんからの「発信」もお待ちしております。ご希望の方は配布時にスタッフ，もしくは編集局連絡先あてまでお知らせください。また十月三〇日には大阪で野宿者支援統一行動が行われます。みなさんのご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。「なにわ路情」もこの行動に賛同しておりますので、次号にて当日の様子をご報告する予定です。（け）

僕の好きなボブディランを描いてくれたT君のイラストです。野宿を経験され、もう5年のつきあいですが、絵がうまいので、これからその腕を生かしてもらおうと思っています（さ）

「ペットどうする？」「そうだよなぁ」

―― 司法書士 西山弓子

巡回法律相談の対話から

突然ですが、大阪府堺市金岡町にある大泉緑地をご存じですか？ 大泉緑地は、大泉池を囲む約二〇〇種三二万本もの樹木が植えられた緑豊かな森林公園です。今回は、昨年、その大泉緑地の森林に点在するブルーテントを一軒一軒訪問した巡回法律相談活動中のできごとから。

「何か困ったことはありませんか」とテントの中へ声をかけて回っていると、犬に餌をあげている女性に出会いました。「自立支援センターには動物を連れて行けないでしょ」「可愛がっている犬や猫をほったらかしにして入れる訳がないでしょ」女性から少したしなめるように言われた言葉です。

「そうだよなぁ」率直にそう思いました。

私たち相談員を見て、ワンワン吠える犬やちぎれんばかりにしっぽをふってくれる犬、慌ててテントの中へ逃げる猫などなど、大泉緑地に限らず巡回法律相談活動をしていると良く見かける風景です。

就職口や健康面から収入の目処が立たない場合や敷金を用意できず借家に入れない場合などには生活保護制度、借金がある場合には破産手続や消滅時効の援用手続、その他にも様々な法的手続きや社会保障制度を利用することによって生活を再建できることを知ってもらいたい、なんとか「路上から畳へ」という思いを直接伝えたいと思って、私たちは巡回相談活動を行っていますが、路上から畳への困難さをまたひとつ、女性の言葉で知ることができました。

「ペットロス」可愛がっていた犬や猫を失うことで精神的ストレスを負ってしまうことを意味する言葉です。路上での生活の厳しさや寂しさを癒してくれる相棒であるなら尚更のことかもしれません。

反対に、「犬猫より人間のことを先に考えろ」という意見もあり得ます。「それもそうだよなぁ」とも思います。

ここまで読むと、私ってなんて優柔不断なのでしょう。でも、私は「そうだよなぁ」と思う瞬間が大好き。「そうだよなぁ」という他者に対する共感は、自分と自分以外の他者との心理的距離を埋めるだけでなく、行動力をも生み出す感覚だと信じているからです。

さて、大泉緑地で偶然出会った犬に餌をあげていた女性と私のように、「発信と受信」があって、初めて「そうだよなぁ」は生まれます。みなさんは、最近「そうだよなぁ」と共感できることに出会いましたか？ そして何より、自分以外の誰かに対して、何か発信しましたか？

「そうだよなぁ」の持つ力を信じて、あなたの言葉で自分以外の他者に対して、どんなことでもいいから「発信」して欲しい。

これが今回の私の「発信」です。受信してくれたかな？

お寺さんが釜ヶ崎にやってきた

―「お寺の出前の会」をご存知？―

今年の釜ヶ崎夏祭りでは慰霊祭のコーナーで、これまでのキリスト教の司祭さんと並んで、仏教のお坊さんの姿が目を引きました。ホームレス支援活動では仏教の登場は珍しいことです。夏祭り実行委員会の人は、「反応はとてもよかった。読経とハーモニカ演奏が合わさって、会場のおっちゃんたちの心を鎮めた。人々は手を合わせ、不思議な力があった」と、感心していました。これは手製の紙芝居を使った「お寺の出前の会」という、宗派の異なるお坊さんのグループで、釜ヶ崎でもこの春から活動を始めています。お寺の出前の会とは？

お寺の出前の会

『お寺の出前の会』は平成一二年六月、「わたしたちは浄土系の僧侶です。病院や福祉施設・お宅など、お声がありましたらどこにでも宗教ボランティアを出前します」と銘うってはじめました。お寺に行きたくてもいけない人のところへ、お寺のような雰囲気を身近にお届けするという活動です。

「出前」を辞書でひきますと、「材料を調理して、注文された家などへ配達すること」とあります。私たちのいう『お寺の出前』は、材料ともいうべき良質で膨大な「佛教」を私たち僧侶が独自の調理方法で料理してつたえることをめざし、佛教や宗教にかかわりそうなことなら何でもメニューにしています。医療・福祉の現場からお声がかかればできるかぎりおうかがいします。

これまでに、医師や看護師・施設職員との研究会、町内会主催の健康にまつわる講座などに出前し、手づくりの紙芝居やハーモニカ演奏による耳・目にうったえるもの、法要儀式などのように雰囲気をあじわうもの、お経の講読会など、ご要望にそうように心がけてきました。何よりも話が一方的にならないよう、肩ひじのはらないよう、そしてひとつの宗教や主義・主張、職業の枠にこだわることなく、いつでも、だれとでも気軽に接し、しかもつねにフットワークの軽い自由な活動をめざしています。

かつて、お寺には医療や福祉などにかかわる環境がととのい、そのほかさまざまに寄せられる相談にも気軽に応じる雰囲気がありました。人々の日常生活にごく自然に、素朴にとけこんでいました。しかし時代とともに幸福を願い、また欲望の追求には、より高度な知識や技術の向上が欠かせなくなり、その結果、医療は医療者に、福祉は福祉職といった専門家の手にゆだねられるようになりました。そして佛教・僧侶の専門は法要儀式にとどまっているように見えます。

しかし、私たちが知る佛教には、お寺の中の法要儀式だけにしておくにはもったいない知恵と経験があります。現在かかえているさまざまな社会問題を解決する糸口が、ここに見いだせのではないでしょうか。なぜなら、二千五百年という歴史の中に、数知れず救われた、心いやされた人々がいるからです。お経がその様子をくわしく伝え物語ってくれています。

結局「どのように工夫したら、この知恵と経験を現在の社会にあうようにつたえられるだろうか」と考えているうちに、活動場所をお寺の中だけに限らず、あえて外に飛びだし『出前』をしようと思い立ったのです。最近では路地に立って、道ゆく通りすがりの人を対象にした「ながし」もはじめました。

どうぞ、佛教に関心があって、何か知りたいというお気持ちやご要望などがありましたら、お気軽に声をかけてください。

屋台のお寺を背景に紙芝居講話

釜ヶ崎での夏祭り慰霊祭
本田神父とともに

●お寺の出前の会
〒583―8691
大阪府藤井寺郵便局
私書箱第三八号

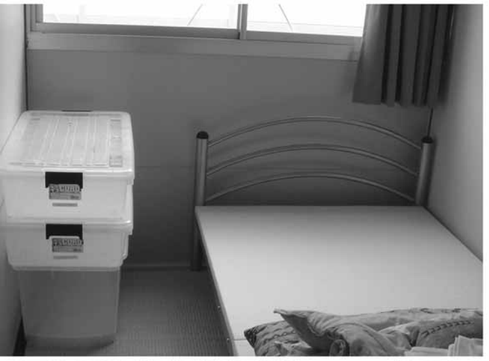
堺市にも自立支援センター開設される!!

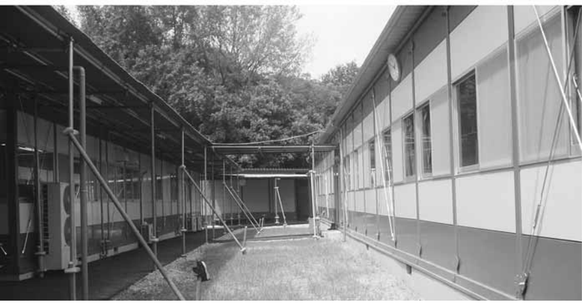
本年三月二八日、大泉緑地内に大阪市を除く大阪府内ではじめて、「ホームレス自立支援センターおいずみ」が開設されました。泉北・泉南地域の市町村で野宿生活を余儀なくされている人々の「自立」支援を目的とした入所施設です。

自立支援センターでは、宿泊、食事、入浴などの生活支援を行うとともに、生活相談員による生活相談（弁護士による法律相談を含む）や健康相談及び就労の斡旋など、野宿生活者（ホームレス）の人が自立できるように、様々な支援を行っています。入所は、大阪社会福祉士会の巡回相談チーム、各福祉事務所を通じてなされています。

施設は、平屋建てプレハブで、管理棟、共用棟、宿泊棟が二つ、ユニットベース（トイレ・シャワールーム、ユニットバス）で構成されている。定員は五〇人。利用期間は、原則として三ヶ月（最長で六ヶ月）。居室は、約三畳の単身者向け個室（写真1）と家族（あるいは兄弟）向け居室が二室（写真2）あります。居室内には、ベッドと畳一畳、ロッカー、消灯後も本など読めるように電気スタンドなどが整備されており、個室でベッドの他に畳があることなど等がこの「おおいずみ」の特徴です。入浴施設としては、シャワールームだけでなく、ユニット・バスも設置されています。

開設当初、入所者数は十数人でしたが、七月末には三〇数名になっており、入所者は増加してきています。自立支援センターは、就労による「自立」を主な目的とした施設で、現在、大阪市内には三ヶ所に設置されています。





（上）家族用居室（中）単身者向け個室
（下）建物の外観

だいじなお知らせ

～国境なき医師団診療所開設～

わたしたち「国境なき医師団診療所」は、車での移動診療を中止して、クリニックを開くことになりました。新しいクリニックは北区の、地下鉄天神橋筋6丁目から北東に徒歩12分　北区長柄中2丁目にあります。地図をごらんください。ここでの診療は十月一七日（月）からになります。

- 診療日　月・火・水・金曜日
- 休診日　木・土・日曜日・祝祭日です
- 診察時間　午前　9:30～12:00、午後2:00～4:00

「一〇・三〇野宿生活者支援統一行動」のお知らせ

来たる一〇月三〇日に、大阪府保険医協会・大阪ホームレス健康問題研究会・ヘルスサポート大阪・国境なき医師団を中心とする、野宿生活者支援を目的に集まった人びとで取り組む「野宿生活者支援統一行動」が行われます。

当日はレントゲン車を使った医師・看護師による健康診断をはじめ、弁護士や福祉相談員との生活相談会、そして参加されたみなさんへの「おにぎり配布」を行います。

もちろん参加は無料ですので、お気軽にお立ち寄りください。専門家とゆっくりお話をすることで、みなさんの悩みの解決につながれば嬉しいです。

【時間・場所】
- 十一時～十四時：西天満の大阪弁護士会館前
- 十五時～十七時半：淀川河川敷・十三大橋から新御堂筋方面
- 二十時～二十三時：大阪駅御堂筋口南・バスターミナル前